［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 6月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1092100021
法人名	財団法人　榛名荘
事業所名	グループホーム榛名荘
所在地	高崎市下室田町965-1 （電　話）027-374-8118

評価機関名	特定非営利活動法人　　群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年6月26日

【情報提供票より】（ 平成21年6月8日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成18年9月　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	10　人	常勤 6人，非常勤 4人，常勤換算 7.7人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2 階建ての　1 階 ～　1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（月額）	48,000　円		その他の経費（月額）	光熱費600円／1日
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200　円	昼食	300　円
	夕食	250　円	おやつ	80　円

（4）利用者の概要（ 6月 8日現在）

利用者人数		9 名	男性	1 名	女性　8 名
要介護1		2　名	要介護2	1　名	
要介護3		6　名	要介護4	0　名	
要介護5		0　名	要支援2	0　名	
年齢	平均	86.6 歳	最低	81 歳	最高　95 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	正田病院、真木病院、野口病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

榛名山麓の烏川が流れる、近隣に榛名高校がある国道406号沿いの町並みに立地している。ホームは、「総合ケアセンター榛名」の複数の施設が入っている中の一つの施設である。入居者は、天気の良い日は散歩に出かけ近隣の方と挨拶を交わしたり、畑の野菜作りや収穫を楽しんだり、敷地内にある店で買い物をする方と触れあったり、地域の方との交流を深めて生活している。「自宅が気になり帰りたい」「墓参りをしたい」等の希望に、家族と相談をしながら心と体を心地よく包み思いを受けとめ、日常の暮らしを支援している。管理者と全職員は、一人ひとりの特性を理解し、認知症ケアのスキルアップに熱心に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回評価での改善課題はないが、重度化については、家族やかかりつけ医と方針を共有して取り組んでいる。また、家族が意見や要望を出しやすいように面会に見えた時に声をかけ働きかけているが、今後も工夫を重ねていきたいと検討している。また、地域との関係性を強化するためにホームから地域に発信したいと検討している。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

管理者及び全職員は評価の意義を理解し、全職員で自己評価を分担して振り返りを行い、会議で話し合いをして管理者がまとめている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議は、2ヶ月毎に法人の総合ケアセンター内の小規模多機能ホームと合同で開催され、利用状況、行事運営報告、評価結果報告を議題に挙げて、意見交換がなされている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

苦情相談窓口は、重要事項説明書類に記載され、ファイルして玄関に置かれている。意見箱も設置している。職員は、家族の面会時には声をかけ生活や健康状態等を伝え、家族から「入居者の車椅子の取り扱いについて」要望があり、運営に反映させている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

ホームは地域の道路清掃に参加したり、入居者は道祖神等の祭りに参加している。また、天気の良い日は散歩に出かけ近隣の方と挨拶を交わしたり、散歩コースで出会う高校生と会話をしている。地域の踊りや歌、マジック等のボランティアグループがホームを訪問したり、中学生の体験学習を受け入れたり、職員が近隣の高校のヘルパー講座の講師として出向く等、地域の方との交流を深めている。

2. 評 価 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、開設時に全職員で検討し創りあげているが、地域との関係性が盛り込まれていないので、現在もう一度理念を見直して特色のあるものを創りたいと職員から声が上がっている。	○	地域生活の継続と関係性を盛り込んだ地域密着型サービスとしての理念を検討され、入居者等にもわかりやすい掲示を検討して頂きたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は管理者、職員で共有し、認知症のよりよい対応を会議などで話し合い、日々理念の実践に取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは地域の道路清掃に参加したり、祭りには入居者も参加している。散歩時には地域の方と挨拶を交わしたり、高校生と会話をしたりしている。踊りや歌、マジック等の地域のボランティアの訪問や中学校の体験学習を受け入れ、職員は高校生のヘルパー講習会の講師に出向くなど地域の方との交流を深めている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、全職員は、評価の意義を理解しており、自己評価項目を分担し、会議で話し合いまとめている。振り返りから、グループホームだよりを毎月の発行に変更している。理念の見直しでは関係性を強化したり、地域に出向いて行く必要を実感している。運営推進会議メンバーに地域の方や家族の参加を呼びかける等改善に向け検討をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に総合ケアセンター内の小規模多機能ホームと合同で開催している。ホームの利用状況、行事運営報告、自己評価及び外部評価の結果報告、その他等で意見交換がなされている。また、地域の区長に災害協力の依頼を行っている。現在、家族の方の出席が得られていない状況である。	○	家族の方も運営推進会議に出席し易いよう日時等の検討を行い、出席者からの意見を運営に活かして頂きたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	支所が近隣にあるので、入居者と一緒に出向き、介護保険の更新をしている。市の担当者からは、ホームの空き状況の問い合わせの電話がある等情報交換をしている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	グループホームだよりを、4月より毎月発行にして、入居者の生活の様子や行事等を掲載し家族等に報告している。家族等の面会時にも報告し、心身の状態に変化がある場合には電話等で伝えている。金銭管理は、家族から一部預り、受診や買い物等の領収書を毎月の利用料の請求書に添えて渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付窓口は、入居時に家族等に説明し、重要事項説明書類に記載され、玄関にファイルして置かれている。また、意見箱の設置もしている。職員は、面会時に入居者の車椅子の取り扱いについて家族から要望を聞いて、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者と管理者は、職員が代わることのダメージを理解しており、離職の場合を除いては職員の異動はせず、入居者が安心感を持って暮らせるための配慮をしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県主催の基礎及び実践者研修会、社会福祉協議会等が主催する研修会等に出席して報告書を作成し、会議時に報告している。報告書は資料等と共にファイルし、供覧している。また、法人内研修「医学的リハビリ、胃ろう、嚥下について」、総合ケアセンター榛名内の研修「認知症について」等を行なっている。ホーム内においても勉強会が行なわれ、働きながらトレーニングを積んでいる。管理者は、資格取得を勧めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、地域密着型サービス連絡協議会の各種研修会に参加し、同業者と交流をしている。職員の他ホームとの相互訪問研修については、他ホームと話し合いをし実施をしていきたいと考えている。	○	他ホームとの相互訪問研修や勉強会等の活動の意義の理解をされているので、今後職員の相互訪問研修等をされることを期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があると、本人や家族等にホームを見学して頂き、お茶を一緒に飲んだりして雰囲気を知り安心感を持ってもらえるようにしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を敬愛し、入居者から家庭料理や白菜漬け、月見団子やすいとん作り等を教えてもらっている。また、農家だった入居者と一緒に畑で野菜を育てたり、洗濯物を干したり、たたんだり、清掃等を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々声かけを行い、「家に帰りたい」「お墓参りをしたい」等の思いや希望をアセスメントシートの特記事項に記録し、ミニカンファレンスで検討している。困難な場合は、家族から聞いて、希望や意向の把握に努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員は、入居者2～3名を担当し心身の状態把握に努めている。本人や家族の希望を聞き、月2回カンファレンスで検討し、ケアマネージャーが計画を作成している。家族にプランを説明し、了承を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にアセスメントを行なっているが、介護計画の期間中でも、家族の希望や心身の状態の変化等がある場合はミニカンファレンスを開催し、プランの変更がなされ現状に即した新しい介護計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅に帰りたい、墓参りに行きたい等の希望には、家族と相談後に職員と一緒に出かけている。また、受診の際に、家族の同行が出来ない場合は、職員が代行している。近隣の床屋には職員と一緒に出かけている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を聞いてかかりつけ医を決め、入居前からのかかりつけ医とする入居者もいる。基本的には家族が受診に同行するが、不可能の場合は職員が代行している。受診結果については、一人ひとりの連絡ノートに記録して、家族と情報を共有している。入院の必要な場合は、かかりつけ医から病院へ連絡をする等適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の希望により、退院後にホームにもどりかかりつけ医の訪問診療を続け再度入院となったケースがある。家族、本人、かかりつけ医、ホーム側等で話し合いがなされて、方針の共有を図っている。過去に看取りのケースはなく、職員間で終末期ケアの具体的な検討はしていない。	○	本人と家族の安心が得られるように重度化や終末期の具体的対応等について全職員で検討されるよう期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の誘導の声かけ等は、さりげなく小声で耳もとで伝たえ、誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。個人情報の記録類は、スタッフルームに保管し、職員は入職時にホーム運営規程第10条に明記してあるように守秘義務についての誓約をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビを見たい入居者、居室で休む入居者、外に出て行動したい入居者等の希望に合わせて支援している。夏物に衣更えをしたいと家族から依頼があると入居者と一緒に出かけて夏服を購入したり、畑の土いじりの好きな入居者と野菜を育てたり、プランターに草花を植えたり、草取り等を行い支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回の食材購入は入居者と一緒に出かけ、料理の本を見ながら献立を考えている。野菜の下拵えやテーブルを拭いたり、お茶を配ったり、配膳や下膳等を職員と一緒にしている。職員と入居者は、食卓を囲み食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日ではあるが、暑い日や畑の土いじり後のシャワー浴を行なったり、入浴を拒否する入居者には言葉かけやタイミングを工夫して入浴を支援している。希望で2人での入浴や季節の柚子や菖蒲湯、入浴剤等で入浴を楽しめるようにしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯や洗濯物を干したり、たたんだり、掃除やごみだし等をしている。農業をしていた入居者は畑で野菜を育てたり、ふきや筍の皮むきをしたり、梅ジュース作りや白菜漬け等を一緒に行っている。また、塗り絵や自分のカレンダー塗り、季節をテーマに貼り絵作り等で楽しめるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、庭の花を愛でたり、近隣の散歩や烏川の河川敷公園まで行くこともある。季節には桜の花見や自然史博物館の見学、大型商業施設やスーパーマーケットへ買い物や食事等に月に一度は車で出かけている。また、居室の前に広いベランダがあり、ティータイムを楽しみ外気浴をするスペースとなっている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員は、鍵をかける弊害を理解していて、玄関や反対側の入り口は夜間を除いて鍵をかけていない。入居者は、職員が見守りをして玄関の外に自由に出ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の火災訓練の内1回は消防署の指導の下、マニュアルを作成し総合ケアセンター全体で行い、消火方法を学び避難経路を確認している。運営推進会議において、区長、民生委員に災害時の協力依頼をしているが、近隣の家には災害時の協力依頼はしていない。	○	入居者が避難できるよう日頃から地域の人々へ協力が得られるよう働きかけを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、一週間の献立を、入居者の方の希望を取り入れて作成している。体調に合わせ、喉を通り易いものやトロミを使用している。体重は毎週計測し、食事量や水分量はチェックし、その情報は共有され支援をしている。	○	法人内の栄養士の方にホームの献立やカロリー及び栄養バランス等についての指導を期待したい。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が飾られている。ホールの天窓から光が入り明るく、ホール中央にはテーブルが置かれ食事や洗濯物をたたみ、塗り絵をする等の作業台となっている。テレビが置かれ、ホール脇には畳のスペースがあり入居者の団欒の場になっている。廊下は手摺りが付き、壁には花見や生活の様子等の写真や塗り絵、折り紙等の季節に合わせた作品が貼られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、鏡付き洗面台と洋式トイレ、空調が設備されている。使い慣れた箪笥、椅子、テレビ、炬燵、仏壇が持ち込まれ、カレンダーや時計、家族の写真等が飾られたり、洋服が架けられ、その人らしく過ごせるような配慮がある。		